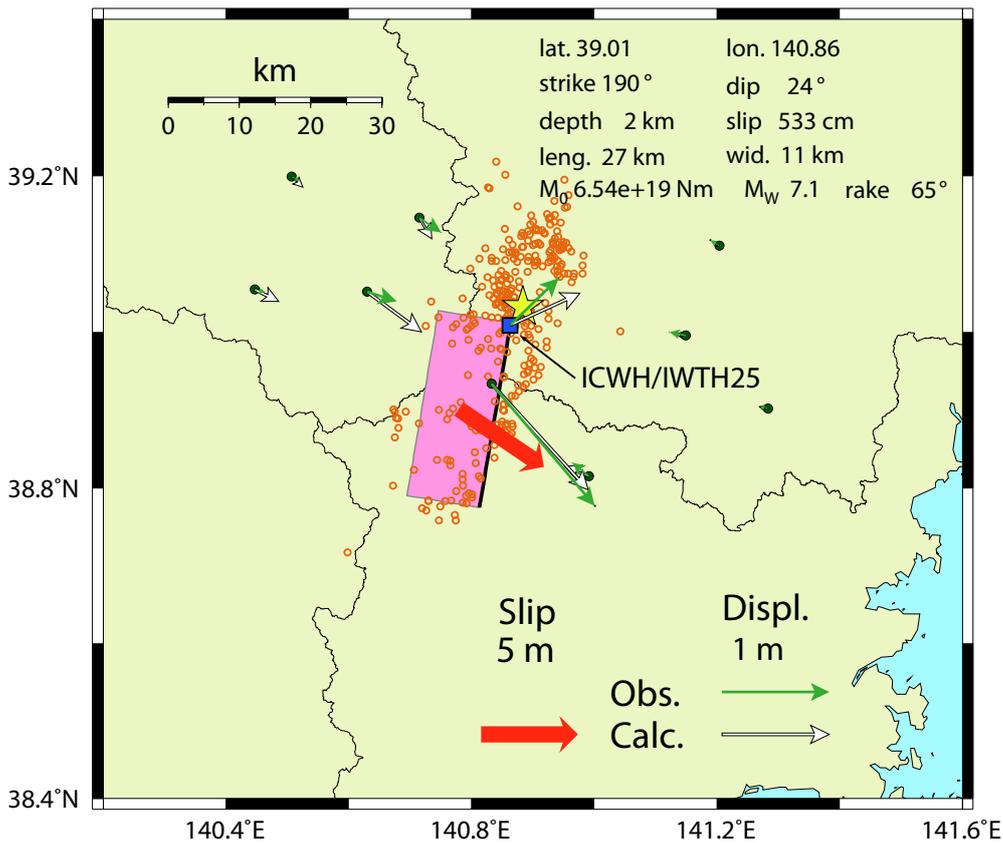


水平変動



平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震の震源域直上にある KiK-net 一関西/IWTH25 観測点での強震動記録から、地震に伴う地表変位が推定された（防災科研資料「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震にともなう断層直上の強震動記録による永久変位の推定」）。この記録は震源断層直上の地殻変動をとらえた貴重なデータであり、周辺の国土地理院 GEONET 観測点における変位データと合わせて、単純な矩形断層 1 枚による断層モデルの推定を試みた。

その結果、本震震源の南側に 5.3 m のすべり量を持つ断層が推定された。この結果は「近地地震動記録による平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震の震源インバージョン」（防災科研資料）の結果とおおむね整合的である。

上下変動

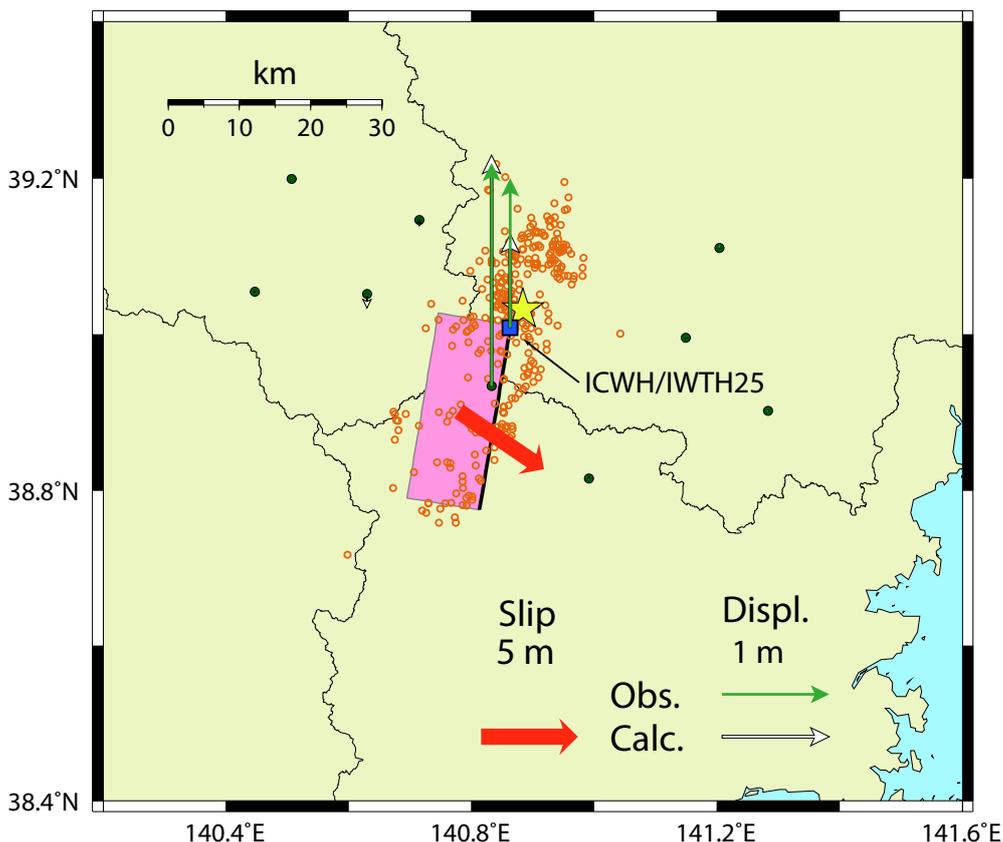


図. 推定された断層モデルおよび観測・計算値の比較. (上) 水平変動 (下) 上下変動. GEONET 観測点位置を緑丸, KiK-net 観測点位置を青四角で示した. 緑矢印が観測された変位、そのデータから推定された矩形断層モデルを赤四角・赤矢印、そのモデルから計算される地表変位を白抜き矢印で示した. 星印が本震の震央位置、橙丸が Hi-net による余震の震央 (6 月 14-17 日).

謝辞: 国土地理院のウェブページで公開された「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震に伴う地殻変動 (第 2 報)」(<http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h20-awatemiyagi/080614houdou3.html>) の変位データを使用しました。